

日本地形学連合 2017 年秋季大会プログラム（改訂版）

期日：2017 年 12 月 2 日（土）～3 日（日）

大会会場：九州大学理学研究院（九州大学伊都キャンパス・ウェスト 1 号館）福岡市西区元岡 744

大会参加費：一般 1,000 円，学生・院生 500 円

懇親会会費：一般 4,000 円，学生・院生 2,000 円

発表者への注意事項：（口頭発表者）PC プロジェクターによる発表者は基本的に各自パソコンを用意してください。休憩時間中に会場のプロジェクターに接続し、動作確認をしてください。（ポスター発表者）パネルの大きさは横 90 cm×縦 210 cm を予定しています。A0 の大きさの紙なら縦に貼ることができます。ポスターは 2 日 10:00 頃から貼ることが可能です。また、3 日 15:30 までには撤去してください。なお、今大会ではポスター発表のコアタイムを国際シンポジウムの時間内に設定しています。海外からの参加者がポスターの内容を理解できるように、可能な限りポスターのタイトル，発表者名，グラフ等の説明などに英語を併記していただきますようお願いいたします。

昼食について：土曜日は学生食堂が開いており、昼食を取ることができます。日曜日は売店が空いています。学生食堂は閉まっています。土曜日に弁当予約を受け付ける予定です。

交通について：九州大学伊都キャンパスへのアクセスについては下記の Web をご覧ください。

<http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/info/>

バスで来られる場合は、JR 筑肥線九大学研都市駅より路線バス、または博多駅・天神から直通バスにて、「九大理学部前」バス停（下車のみのバス停）にて下車してください。土日はバスの便が限られておりますので、時刻にご注意ください。博多駅方面には、「九大工学部前」から乗車してください。車で来られる場合、土日は十分な駐車スペースがあります。ただし、一日ごとに駐車料金が 300 円かかります。

大会に関する問い合わせ先

鹿島 薫 九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門

e-mail: kashima@geo.kyushu-u.ac.jp TEL: 092-802-4212

プログラム注記 *は筆頭以外の口頭発表者、所属の表記は以下の通りである。一部の長い研究所名称については略称を用いた。また、法人種別等（(株)、(有)、(独)など）、学部・研究科、支所、部署名は省略した。以上の表記で同じ所属となる発表者が2名以上連続する場合は同所属の最後の発表者のみに所属をつけた。

日程

12月2日(土) 会場 W1-C-201 号室

10:30~12:00 国際シンポジウム'Frontiers in Geomorphology – Rock Weathering and Landscape Evolution' (日本地形学連合・日本学術会議 IAG 小委員会共催) 第1部 W1-C-201 号室
趣旨説明

S1. Tilak Hewawasam (ペラデニヤ大) : Quantification of rock weathering at regolith scale – A frontier in critical zone science

S2. 八反地剛 (筑波大) : Limestone weathering and evolution of doline

12:50~13:50 ポスター発表コアタイム (1) W1-D-210 号室

14:00~16:20 国際シンポジウム'Frontiers in Geomorphology – Rock Weathering and Landscape Evolution' (日本地形学連合・日本学術会議 IAG 小委員会共催) 第2部 会場 W1-C-201 号室

S3. Miguel Gomez-Heras (マドリード自治大) : 30 years of thermal weathering research: from Yatsu's "The Nature of Weathering" to IR thermal imaging

S4. Alice Turkington (ケンタッキー大) : Bedrock weathering and biogeomorphic processes

S5. Patricia Warke (クイーンズ大ベルファスト) : Whither weather? Challenges for rock weathering research in the 21st century

総合討論

16:30~17:20 日本地形学連合総会 会場 W1-C-201 号室

17:30~19:30 懇親会 (会場 九州大学生協 E-café)

12月3日(日) 会場 W1-C-201 号室

10:00~11:15 口頭発表 (1) 座長: 小玉芳敬 (鳥取大) 会場 W1-C-201 号室

O1. 10:00~10:15 芹沢真澄 (海岸研究室)・宇多高明 (土木研究センター)・宮原志帆 (海岸研究室) : Recurved sand spit の形成予測モデル

O2. 10:15~10:30 宮原志帆 (海岸研究室)・宇多高明 (土木研究センター)・芹沢真澄 (海岸研究室) : 猪苗代湖の長瀬川河口東部における孤立砂州の変形調査

O3. 10:30~10:45 宇多高明 (土木研究センター)・芹沢真澄・宮原志帆 (海岸研究室) : 苅田市沖の干潟面上における孤立砂州の大移動

O4. 10:45~11:00 石川 智 (むつ市) : 青森県むつ市の砂嘴地形で見られる珪藻群集と古環境

O5. 11:00~11:15 鹿島 薫 (九州大)・ Ganzorig Ulgiichimeg (モンゴル科学アカデミー)・箕田友和 (九州大・院) : モンゴル・アルタイ山地における湖沼・湿原における環境変動の復元

11:15~11:25 総合討論

12:10～13:10 ポスター発表コアタイム（2）会場 W1-D-210 号室

13:10～14:50 口頭発表（2）座長：石丸 聡（北海道立総合研究機構）会場 W1-C-201 号室

O6. 13:10～13:25 南雲直子・江頭進治（土木研究所）：2017年7月九州北部豪雨における赤谷川流域の土砂流出特性と集落立地条件

O7. 13:25～13:40 高谷精二：中岳沢における土砂移動様式

O8. 13:40～13:55 福井宏和（京都大・研究生）・寺嶋智巳（京都大）：浸透力が人工砂質斜面の表層崩壊に及ぼす影響

O9. 13:55～14:10 渡壁卓磨（京都大・院）・松四雄騎（京都大）：異なる基盤岩の斜面における降雨浸透過程と表層崩壊の発生メカニズム

O10. 14:10～14:25 園田美恵子（同志社大）・倉茂好匡（滋賀県立大）・山田周二（大阪教育大）・野中理伸（ハイドロテック）：風化花崗岩森林斜面における乾燥/湿潤による表層土クリープのメカニズムの秘密

O11. 14:25～14:40 小暮哲也（島根大）・奥田悠大（島根大・学）：地すべり移動体表層のクリープおよび深部すべり面の滑動：分布式光ファイバーセンシングによる検出

14:40～14:50 総合討論

15:00～16:40 口頭発表（3）座長：小暮哲也（島根大）会場 W1-C-201 号室

O12. 15:00～15:15 小玉芳敬（鳥取大）・高橋 聖（AUTOSERVER）：ドーナツ型風洞を用いた風紋描画装置の開発

O13. 15:15～15:30 前田拓志（日本大・院）・藁谷哲也（日本大）：房総丘陵の河川における下刻速度の制約モデル

O14. 15:30～15:45 水戸川司（島根大・院）・小暮哲也（島根大）：GNSS データ解析による山陰地域ひずみ集中メカニズムの解明

O15. 15:45～16:00 吉村辰朗（明大工業）：地質断層のべき乗則から検討した「未知の活断層」と「C 級活断層問題」

O16. 16:00～16:15 山内啓之（東京大）・早川裕弐（東京大）・小口 高（東京大）：GIS の実習用オープン教材における地形分野の教材の特徴

O17. 16:15～16:30 目代邦康（日本ジオサービス）：保護・保全の視点から見た地形の評価と分類

16:30～16:40 総合討論

16:40 閉会挨拶

ポスター発表（ポスター会場 W1-D-210 号室）

P1. 平田康人（京都大・院）・千木良雅弘（京都大）：冷却節理の発達した玄武岩の初生構造と風化過程—近畿北部、田倉山火山の例—

P2. 佐藤昌人（筑波大・院）・八反地 剛（筑波大）：湿度変化に伴う岩石の塩類風化に関する室

内実験

- P3. 宋 苑瑞 (法政大)・藁谷哲也 (日本大)・小口千明 (埼玉大) : A conceptual model for the biological weathering in Angkor Wat temple.
- P4. Md Hasan IMAM (埼玉大・院)・若月 強 (防災科研)・上田真理子 (防災科研)・小口千明 (埼玉大) : Geochemical and mineralogical changes affecting to weathering indices of several granitic slopes in Japan
- P5. Sushmita HOSSAIN (埼玉大・院)・石山 高・八戸昭一 (埼玉県環境科学国際センター)・小口千明 (埼玉大) : Identification of dominant clay mineral in variable subsurface depositional environmental sediments of Kanto lowland, Japan
- P6. 石丸 聡・興水健一・小安浩理 (北海道立総合研究機構) : 平成 29 年 7 月九州北部豪雨により発生した斜面崩壊の形態的特徴 ―結晶片岩と花崗岩類斜面における崩壊の特徴―
- P7. 若月 強・佐藤昌人・吉原直志・榎本壮平・上田真理子・後藤千晴・山田隆二 (防災科研) : 2017 年 7 月九州北部豪雨による斜面変動の発生場所と土層構造
- P8. 宝蔵蓮也 (東京大・院)・須貝俊彦 (東京大)・高橋尚志・佐々木夏来・泉田温人 (東京大・院) : 平成 29 年 7 月九州北部豪雨における土砂移動プロセスの特徴と地形発達史的考察 (速報)
- P9. 原 充宏 (島根大・院)・小暮哲也 (島根大) : 確率降水量に基づく深層崩壊発生までの降水量の正規化
- P10. 高田侑也 (島根大・学)・小暮哲也 (島根大) : 写真測量を用いた降雨による土砂流出量の推定
- P11. 興水健一・小安浩理・加瀬善洋 (北海道立総合研究機構) : 急崖斜面における UAV-SfM 測量―北海道日本海沿岸の例―
- P12. 小倉拓郎 (東京大・院)・早川裕弐 (東京大)・青木賢人 (金沢大) : 高精細地形情報を用いた河床における礫堆の変化抽出―水位変動との関係―
- P13. 小花和宏之 (ビジョンテック)・加藤 顕 (千葉大) : UAV とマルチ/ハイパースペクトルカメラを用いた植生の観測
- P14. 田中 靖 (駒澤大)・八反地 剛 (筑波大)・児玉龍哉 (筑波大・学)・土志田正二 (消防研究センター) : 一般的な流域処理アルゴリズムと高解像度 DEM を用いた上流域面積計測の精度
- P15. 高波紳太郎 (明治大・院) : 薩摩半島川辺盆地における遷急点の後退速度
- P16. 高場智博 (明治大・院)・吉田英嗣 (明治大) : 扇面勾配を規定する集水域の規模―日本列島の小規模扇状地を例に
- P17. 杉山弘晃 (鳥取大・院)・小玉芳敬 (鳥取大) : 風洞実験における給砂量と飛砂量の関係～適切な給砂量の決定法～
- P18. 岩淵博之 (鳥取大・院)・小玉芳敬 (鳥取大) : 鳥取県中部気高海岸を構成する堆積物の流砂系を探る
- P19. 宮脇隼輔 (鳥取大・院)・小玉芳敬 (鳥取大) : 鳥取砂丘海岸における海浜堆積物の粒径分布特性

- P20. 箕田友和（九州大・院）・鹿島 薫（九州大）・原口 強（大阪市立大）・吉永祐一（防災地質研究所）・山田和芳（ふじのくに地球環境史ミュージアム）：天草諸島・池田池の湖底ボーリングコア中における明暗互層の形成過程
- P21. 島津 弘・大石雅之（立正大）：玄奘三蔵がたどった道沿いに見られる地形－ウズベキスタン，サマルカンドからテルメズまで－
- P22. 若狭 幸（秋田大）・Vladan Marinkovic（MMI-Bor）：歴史的鉱山が環境や地形に与える影響について
- P23. 羽田麻美（琉球大）・南雲直子（土木研究所）・島津 弘（立正大）・古市剛久（北海道大）・永井 遥（早稲田大・院）・伊藤理子（日本大・学）・小口千明（埼玉大）：「女子中高生夏の学校2017」における地形学のアウトリーチと現地地形実習
- P24. 岩船昌起（鹿児島大）2017年10月霧島山新燃岳噴火にかかわる避難警戒対応

会場案内図

